

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

人格の完成をめざし、民主的な社会の形成者として、個人の価値を尊び責任を自覚し、次代の日本をリードする人材を育成し得る高等学校

強き信念(まこと)と 高き理想(のぞみ)を持つ生徒が育つ高等学校

1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校
2. 知・徳・体の調和のとれた教育をととし、豊かな人間性を涵養する学校
3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校

2 中期的目標

1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校

- (1) 新たな大学入試制度に対応し、次期学習指導要領を踏まえた教育課程を編制し実施する。
 - ア 主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。
 - イ 課題研究活動の内容を深化させ、探究的な学びの充実をはかる。
- (2) グローバル・リーダーズ・ハイスクール(GLHS)、スーパーサイエンス・ハイスクール(SSH)としての教育内容を充実させる。
- (3) 進路指導年間計画を充実させるとともにキャリア教育の充実を図る。
 - ア 進路検討会議の継続をはじめとした取組みの充実と一層の進路指導の情報提供に努める。
 - イ 生徒の進路実現を支援し、国公立大学 70%(現浪)を実現する。(H30. 64% R1. 65% R2. 63%)
- (4) 英語コミュニケーション能力の育成
 - ア 4技能(聞く、話す、読む、書く)統合型授業の充実を進め、CEFRに対応した校内スピーキングテストを充実し、実践的英語力の向上を図る。
- (5) ICT化対応の教育の推進と効果的な 65 分授業を実施する。
 - ア GIGAスクールの実施、生徒1人1台端末に合わせた、授業、その他の学校教育活動のICT化を進める。
 - イ 教員研修の充実等により密度の濃い 65 分授業を行う。

2. 知・徳・体の調和のとれた教育をととし、豊かな人間性を涵養する学校

- (1) 学習と学校行事・自治会活動・部活動を両立させうる生徒を育成する。
 - ア 1年次部活動加入率 90%以上を維持する。(H30. 91% R1. 94% R2. 90%)
 - イ 取組み内容の精選を行い、自主的活動全般のレベルを上げ、意欲につながる充実感を持たせる。
- (2) あらゆる場で、人を支える意識・人権尊重の意識の向上に努める。
- (3) 図書館の活用促進・読書指導の充実を図る。
- (4) 通級指導を全校体制で取り組み、学校教育全体のユニバーサルデザイン化を進める。

3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校

- (1) ボランティア体験活動や授業や行事などを通じて、社会貢献の意識を高める。
- (2) コロナ禍の状況の中でも、オンラインや国内留学生との交流などにより、交流国際感覚の向上に努める。
- (3) 周辺地域、学校の教育活動に関連した関係諸機関との連携を充実させていく。

4. 働き方改革の推進

分掌間の調整を進め、校務処理等の仕組みを見直し、効率化を進め業務負担軽減をはかる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 3年 12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒アンケートでは、「授業」「学校行事」「進路」「部活動」「相談・支援」といった項目の肯定的評価が 90%前後と高い。また、学校生活満足度も 90%を超えている。これは昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により教育活動に制限がかかる中、行事については自治会が中心となってできることを工夫するなど、生徒が主体的に活動できたことがその要因であると思われる。「自治会活動」の項目の肯定的割合が上昇していることから見て取れる。</p> <p>保護者アンケートでは、昨年度同様、一昨年度に比べ 200 人近く多い回答を得ることができ、教育活動の項目の評価もそのほとんどが 90%を超えている。一方、ホームページの項目の肯定的割合が 75.8% (昨年度比 10.3 ポイントダウン) であった。学校への高い関心と信頼をいただいているが来校の機会が減っているため、ホームページが学校の様子を知るツールとして期待されていると考えられる。今後はより積極的な情報発信に努めたい。</p> <p>教職員アンケートでは「教職員が意欲的に取り組める環境にある」(教職員用)の項目の評価が良好へと上がった(昨年度 1.6 ポイントアップ)。次年度も引き続き学校全体で本校の特色ある取り組みを進めていきたい。</p>	<p>【第1回 令和3年9月20日 書面により実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学に関してはそこそこの頑張りで行ける大学に進学している傾向が強く、浪人率も低いです。医学部合格者も少なく、物足りなさを感じます。より魅力的な学校となり高校受験の時の受験生の質を高めるか、3年間でより高い目標を持って頑張る生徒を育てるか、おそらく両方が必要と思います。 <p>【第2回 令和3年11月26日実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大手前は授業が面白くて個性的な先生が多い。その親しみやすさ、わかりやすさがあるからこそ生徒もついてきているのだろうと思う。 ・大学進学者数はあくまでも結果である。大手前には「大手前らしさ・ポリシー」を貫く、追求するという姿勢を持ち続けてもらいたい。 ・身を乗り出して授業を聞くというのは、学力や習慣、環境の現れだと思う。さすがは大手前だと感心した。先生も生徒も良い表情をしていた。 <p>【第3回令和4年3月10日に実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校診断集計結果において学習意欲の高い生徒に対する学習指導の項目の得点が低下している点が気になります。 ・ホームページを使った保護者への情報発信にはやや課題が見受けられる。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校	(1) 学力の充実と進路希望の実現 ア 学習指導方法の更なる工夫と改善 イ 全員が課題研究に取り組むための指導体制の確立 ウ 明確な進路目標をもたせるための指導と、進路実現を図るための指導の充実 エ 英語4技能の身につけるための取組みの充実 オ ICT化の活用と65分授業の効果的な実施	ア 授業改善 ① 日常的な授業見学や研究授業、研修の実施などにより、積極的に授業改善に取り組む ② 学習到達度の低い生徒に対する授業の工夫や、補習・講習の充実に努める。 ③ 生徒1人1台端末に対応した効果的な指導方法を研究する。 A. 授業相互見学の実施 B. 定時制教員や他校教員との合同研修の実施 イ 課題研究の指導体制 ① SSコースの研究レベルの向上 ② LSコースの指導プログラム作り ウ 進路指導 ① 集中セミナー、サマースクールの充実 ② SSH事業における研修やマifestaなどの実施 ③ 進路実現に向けた研修や講習の実施 エ 英語4技能の取組み ① 4技能を測る校内テストの充実 ② 外部検定試験受験の促進 オ アクティブラーニング ① 授業のICT化の促進と密度の濃い 65 分授業の実施	・授業アンケート肯定評価の向上[89.5%] ・学校教育自己診断における以下の項目の肯定度の向上 「興味深い授業」[93.9%] 「到達度の低い生徒への指導」[81.5%] 「発表する力」[81.3%] ・授業相互見学年1回全員が実施 ・合同研修の実施3回[2回] ・自習室利用者の増加[日平均25人] ・コンクール受賞数の増加[1人] ・課題研究発表会を総計3回実施 ・学校教育自己診断 「GLHS、SSHの取組み」肯定率の向上[生徒82.4%、教職員80.2%] ・12月進路検討会議の実施 ・国公立進学率の向上[現浪63%] ・共通テスト後の進路別講習の実施 ・授業内スピーキングテストの継続[3年間で延べ4回] ・外部検定受験者はA2以上を維持 ・学校教育自己診断の関係項目の向上[生徒94.7%、教職員96.3%]	・授業アンケート肯定的評価は90.3%、学校教育自己診断の各項目については、それぞれ91.8%、68.9%、77.7% (△) ・授業相互見学は全員実施はできていない (△)、 ・定時制との合同研修2回及び他校教員も交えた研修2回を実施。(○) ・自習室利用者平均11人/1日。ただし、希望の少ない日も開室し、1月末現在延べ982人となっている (△) ・新型コロナウイルスの影響で、参加できるコンクールが減ったが、SSHの全国発表で4名受賞 (◎) ・課題研究発表会は計画通り実施できた。(○) ・マifestaは外部会場夏予定を延期し内容・形態を一部変更12月末開催で実施し全国からの参加者を得た。海外研修代替のオンライン研修を実施し、1年京大研修2年阪大研修は実施できた。GL生徒80.6%教職員85.4%SSHは生徒79.9%教員96.7%となり教職員の肯定度は向上した。(○) ・進路検討会議の実施と、1月の共通テスト後の講習を、個別試験対策を強化し実施した。 ・国公立大学進学者は63%となった。(暫定値です) ・スピーキングテストは計画通り実施。 ・CEFRに基づく校内テスト(CEFR-O)により計画通り実施した。(○) ・外部検定受験者数は新型コロナの影響もあり減少しているが、A2をクリアしている。(○) ・学校教育自己診断では、生徒92.3%、教職員91.9%となっている (△)
	2 豊かな人間性を涵養する学校	(2) 豊かな人間性の涵養 ア 学校行事や自治会・部活動の取組み充実 イ 挨拶の励行と自己管理能力の向上 ウ 教育相談と通級指導の連携による生徒支援の充実 エ 人権尊重の意識の向上 オ 図書館の活用促進	ア 行事と自治会・部活動の充実 ① コロナ対策を行った上で行事を充実させる ② 歓迎行事の充実により部活動入部を促進する イ 挨拶の励行と自己管理能力の向上 ① 5分前集合の徹底により遅刻欠席を減少させる ウ 生徒支援の充実 ① 教育相談体制を充実させる ② 通級指導教室での支援を充実させる エ 人権HRなどの充実 ① 仲間の思いのわかる集団作りを進める ② いじめや人間関係トラブルへの組織的対応 オ 図書館の活用 ① 委員会活動の活性化と利用促進	・学校教育自己診断の肯定度の向上 [HR86.9%、行事91.5%、自治会90.2%] ・学校生活満足度の向上[92.1%] ・部活動入部率の向上[90%] ・遅刻者数の減少[9.4%減] ・学校教育自己診断の肯定度の向上 [93.4%] ・SCによる相談活動20回[20回] ・通級指導の校内体制の充実 ・学校教育自己診断の肯定度の向上 [人権学習93.5% いじめ対応93.0%] ・委員会活動実績と人数の増加[31人]
3 人間の育成を期す学校	(3) 社会貢献活動の推進 ア 社会貢献の意識の高揚 イ 国際感覚の向上 ウ 地域と連携した教育活動の充実	ア 社会貢献活動の充実 ① ボランティア体験活動の実施 イ 国際教育の推進 ① オンライン研修や交流の実施 ② 姉妹校や連携校との交流(国際科学会議) ③ 国内留学生との交流などの新企画の実施 ウ 地域との連携 ① 保育所等交流、弁護士会、税務署などの地域を舞台にした教育活動の実施	・大阪城公園の清掃ボランティア、その他ボランティア参加人数の増加[30人] ・オンライン研修の実施 ・企画の満足度90%以上 [R2はオンライン交流のみ] ・各取組みの実施 [R2は保育所交流はできず]	・大阪城公園清掃ボランティアはコロナ禍により人数を絞って実施。参加者総数は26人であるが、自治会主催で生徒が企画して行なった。(○) ・海外研修は実施できず。オンライン研修を3種類実施しいずれも肯定度は100%。その他、台湾とのオンライン交流、3月には台湾の高校とのオンライン交流を予定している。(◎) ・保育所交流はコロナ禍により未実施。弁護士会・税務署との連携活動は実施できた。さらに3月に地元中学校への出前授業実施予定。(◎)
	4 働き方改革	(4) 働き方改革の推進 ア 校務処理の効率化	ア 校務処理等の効率化を進める	・時間外勤務の削減前年度比10%減 [前年度比5%増]